



育ちの芽



副園長 奥村 綾

新年度がスタートし、1ヶ月が過ぎました。

今年度は、新学期が始まる前に、ひじり tube で『先生紹介』をしたところ、保護者の皆様から、

「先生の顔と名前がよくわかりすごくよかったです。」「子どもが、担任の先生に会えることを楽しみにしていました。」等のご感想をいただきました。そのことも関係してか、今年の年少組さんは、初日に泣いて登園する園児が少ないように感じました。しかし、日が経つにつれ、足取りが重くなる子がいたり、泣いて先生に抱きかかえられて保育室に行く子ども達も増えてきました。2週目あたりから、ようやく落ち着き始め、一人で保育室に向かう子や、友達と手をつないで行く姿も見られるようになってきました。ただ、緊急事態宣言中ということもあり、少しの体調の変化や家族の体調不良などでもお休みをいただいていますし、臨時休園、ゴールデンウィークと連休が続きましたので、園生活に慣れるのに時間がかかっている子どももたくさんいます。

保護者の皆さんにとっては、まだまだ心配は尽きないと思いますが、朝泣いて登園していても、おうちの人と離れる瞬間だけ寂しくなるようで、保育室に入ったり、園庭で遊んだりする頃には笑顔が見られますので、明るく送り出してあげてくださいね。その子なりのペースで、徐々に慣れていきますので、おおらかな気持ちで対応していただければと思います。

～うきうきタイム～

朝登園するとすぐに園庭に出て外遊びを楽しむ子、保育室にある目新しいおもちゃで毎日遊ぶ子、ピロティでは、こいのぼり制作をしたり、色水遊びをしたり、それぞれが思い思いの遊びを楽しんでいます。また、まだまだこの時期は、以前のクラスの子と遊ぶ姿が多く見られます。鬼ごっこをしている子ども達の様子を見てみると、全員去年のたんぼぼ組さんだったり、以前のクラスの子と園庭で待ち合わせをしていたりと、それぞれが安心して遊べる場で過ごしています。

この時期は毎年、ダンゴムシ探しに夢中の子ども達。今まで触れたことがなかった子が、年長さんが触っている様子を見て、手の上に乗せてみたり、大きなダンゴムシの背中に小さいダンゴムシが乗っているところを、嬉しそうに見せに来てくれたり、裏返ったダンゴムシのお腹に卵があることに気づいたり、日々発見の連続です。

ダンゴムシが何匹かブロック塀の穴に入っていく様子を見た年少児が、「家族でここに住んでいるのかな？」

「ここにエレベーターがあって、上まで登って行ったんじゃない？」とお話をしてくれました。

ある日、給食室の外の壁にイモリを発見。年長組の女の子が手で捕まえてくれました。女の子は、イモリがしっぽを切って逃げることを知っていて、体の方をもっていたのですが、隙をみてイモリが自らしっぽを切り、逃げようとしていました。しっぽが切れた瞬間を、15人程の園児が見ていて「わーしっぽ切れたー!!」と大興奮。切れたしっぽが、しばらく動く様子を興味深く観察していました。女の子達は、イモリの名前を決めたことを職員室に言いに来てくれたり、毎朝お散歩をしたりして、しばらくの間ケースで飼うことにしました。何を食べるか一緒に調べたのですが、生きているオタマジャクシや虫を食べるとわかり、それはなかなか捕まえるのが難しいということで、イモリがいたところの葉っぱを入れました。緑色の葉っぱをたくさん入れてしばらくすると、イモリの体が緑色に変化しました。女の子達は驚いて、「見て一見て一」と園庭にいる子や先生達に見せて回り、みん

なに「すごいね！」と言ってもらって嬉しそうにしていました。次の日、一緒にイモリを見つけた年少児が、「じゃあ、赤い葉っぱを入れたら赤になるの？」と、園庭に落ち葉を探しに行ったのですが、この時期、赤い葉っぱは落ちていなかったのので、茶色の葉っぱを入れてみました。今度は、イモリの体が茶色になり大喜び。「じゃあニンジンを入れてオレンジ色になったら僕触れるかも。」
「いろんな色の葉っぱを入れて虹色になったらいいのにね。」と発想がどんどん膨らんでいきました。子ども達の、言葉の表現力の豊かさにはいつも驚かされます。

新年度が始まって毎日、年長の女の子数名が、さくら組に行っている姿がありました。さくら組さんの子が登園すると、朝の準備を手伝ってあげたり、トイレに連れて行ってあげたり、手を洗う時に袖をめくってあげたり、給食が始まってからは、準備を手伝ってあげたり、給食が終わる時間に片付け方を教えてあげたり、、、
「先生今日は何時に来たらいい？」と時間を確認し、元担任の横井先生を助けようと、自主的に行動している姿に感心しました。1ヶ月経った現在もお手伝いは継続しています。

暖かくなってきたこの時期は、水遊びも子ども達にとって大好きな遊びのひとつです。靴や靴下が濡れることを全く気にせず、バシャバシャと水溜りに入っていき姿や、水溜りの中にしゃがみこんで、友達と夢中で泥遊びを始めたり、気がつくとおしりはどっぷりと水につかり、パンツまで濡れていても、気づかずに平気で遊んでいます。これは、子ども達が本来持っている、特別に強い好奇心によるものだそうです。子ども達は、この強い好奇心によって、周囲にあるもの、起こることのすべてに興味を持ちます。「これなんだろう?」「ここを押したらどうなるんだろう?」「水の中には何があるんだろう?」と、対象をかまわず、何んでもかんでも興味を持って、触れて、楽しめます。この強い好奇心は、成長するためにとっても大切なもので、これによって子ども達は、さまざまなことを学んでいきます。子ども達の好奇心が薄れてしまわないように、園では、子どもが自主的に始めた遊びをできるだけ見守るようにしています。おうちの方々にとっては、服が汚れて洗濯が大変だと思いますが、幼稚園ならではの、この時期ならではの遊びを、思い切り楽しんだ子ども達を『今日もいっぱい遊んで楽しんだね!』という気持ちで、温かく見守っていただくと幸いです。

園庭にある、“とゆ(樋)”をいくつも繋げて『流しそうめんごっこ』を楽しむ姿も見られます。ビールケースを何段か重ね、高いところから流したり、年長さんが作ったものを見て「すごいね!」と真似てみたり、水が逆流した時にはどうしたら流れるか考えたり、途中で水が漏れてしまう箇所には、下にバケツを置いてみたり、試行錯誤しながら遊ぶ姿が見られます。

このように遊びの中には、さまざまな『育ち』『学び』があります。幼児期の遊びの中の『学び』は、小学校の学習とは違って、目には見えにくいと言われています。そこで可視化を図るために、卒園までの子どもの成長を考える視点と目安として【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿『10の姿』】が、幼稚園教育要領に記されました。この『育ち』は、子ども達の主体的な遊びを通じて、総合的に育まれます。今後も、幼稚園では、この『10の姿』を手掛かりに、遊びの中から育つ『非認知能力』(想像力・創意工夫する力・探求心や表現力・協調性・思いやり・意欲・積極性・根気など)を育てる様々な工夫をしていきたいと思えます。

保護者の皆さんも、さまざまな遊びや活動の様子、子ども達の姿から『育ち』『学び』を見つけていただき、共有していければと思います。

～外国人講師～

本園では、週に3回フマ先生(出身地 パキスタン)が来園しています。うきうきタイムでは、一緒にサッカーをしたり、泣いている子には、そっと傍に寄り添い声をかけてくれます。まだまだ英語で会話とまではいきませんが、「ハロー」と挨拶を交わしたり、関わり合いながら、自然と英語に触れ合えるようにしています。